

あさがお通信23号

2011 HAPPY NEW YEAR

May the New Year turn out to be the happiest and the best for you.

新年のご挨拶

理事長 竹下 育男

皆さまにおかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、平素は当法人の活動にひとかたならぬご協力、ご尽力を賜り、有難うございます。

さて、当法人は平成22年度福祉医療機構の助成を受け、「法人を核とする成年後見事業」というテーマで調査研究活動を行っております。その一環として昨秋、県下の市町長による成年後見申立及び後見報酬助成等の実態調査を行いました。

各市町の協力を得てアンケート及び訪問調査を行ったのですが、訪問調査の実施にあたっては、滋賀県社会福祉士会、成年後見センター・リーガルサポート滋賀支部及び滋賀弁護士会の各団体にご理解を頂き、共同調査を行うことが出来ました。

福祉の分野における関係専門職種の連携の重要性は最近特に強調されているところであり、福祉専門職のみならず法律家等も含めてのネットワーク構築の必要性が叫ばれています。しかし、滋賀県では個別に専門家が連携することはあっても、これら三団体が共同して何かを行うということはこれまであまりなかったように思います（社会福祉士会と弁護士会による高齢者虐待対応支援ネットが初めての共同プロジェクト）。（以下、2面に掲載）

発行 2011年1月1日

特定非営利活動法人 あさがお
大津市浜大津3-2-4

三団体による共同調査を思い立ったのも、専門職種による連携を広げたいとの思いからであり、それが実現出来たのは、当法人が日頃の活動のなかで、社会福祉士、司法書士、弁護士等の専門職種との連携を大切にし、ネットワークを築いてきたからであると自負しております。

別稿においても紹介しておりますが、この助成事業の一環として岡山県における専門職のネットワークについての勉強をさせて頂く機会がありました。専門職種のみならず行政職員、社協職員まで関与してのネットワークが出来ており、地域のニーズに対応しておられ、また後見を担う法人も幾つもありました。お話を聞いた時、当法人の職員のみならず、事業に実行委員として参加しておられる社協職員、学者、司法書士等の皆さんが「これはすごい、滋賀でも実現したい」と感激されていました。滋賀での実現には様々な課題があると思われませんが、当法人もそのネットワークの一翼を、大津を中心とした地域で担うことが出来ればと強く思う次第です。

本年も旧年以上のご支援、ご指導を賜りたく、お願い申し上げます。

滋賀県高齢者虐待問題研修会



谷川ひとみ氏 (谷川社会福祉士事務所)

滋賀県から委託を受けて行っている高齢者虐待問題研修会を地域包括支援センター職員を対象に開催しました。今回は、虐待ケースにおいて、担当者が直面し、日々悩んでいる個人情報保護の取り扱いについて、その上で根拠がある情報をどのように収集していくか、また関係機関が情報を共有する会議をどのように運営していくかなど、会議の要である担当者として果たす役割について、講演やグループワークを通して学びました。参加者の中には、早速明日から実践したいと宣言された方もあり、その笑顔は印象的でした。



村上香乃氏 (緒方・藤川法律事務所)

《参加者の声》

○情報収集やアセスメントの仕方、会議の持ち方に至るまでぼんやりしていたことが明確になった。

○具体的な手法を紹介して頂いたこと、情報収集に気をつけること、会議の持ち方など、実践に使える方法を教えて頂いたのがありがたかった。

認知症ケア向上研修

第5回目：66名参加 『専門機関の連携について』

講師：宮川 正治氏 (南草津けやきクリニック院長)

第6回目：72名参加 『成年後見制度について』

講師：西川 健一 (特定非営利活動法人あさがお)



宮川正治氏 (南草津けやきクリニック院長)

6回に渡って、福祉・医療関係者に向けて認知症ケア向上研修を開催してきました。毎回、多くの方に参加をして頂き、関係者の意欲の高さを実感しました。この研修会が参加された方の今後の取り組みのヒントになることを心から願っております。

岡山県視察



11月、NPO法人岡山高齢者・障害者支援ネットワーク理事長の竹内俊一弁護士をお招きし、先駆的な岡山県における権利擁護支援のネットワークについてお話をいただきました。

岡山では、高齢者・障がい者権利擁護ネットワーク懇談会（通称「ネット懇」）において弁護士や司法書士、行政書士、社会福

祉士、精神保健福祉士、保健師、社会保険労務士、税理士、ケアマネジャーなど、様々な業種が一同に集まり、権利擁護に関する情報交換や意見交換などを行っています。また、時間無制限かつ予約不要である“巡回なんでも相談会”を開催し、専門職同士が一緒に対応し、それぞれの専門職の強みを生かしたワンストップ相談を行っています。

そのような岡山での活発な取り組みについてお聞きするにつれ、滋賀でもそのようなネットワークの検討をしていく必要があるのではないか、と参加者は強い刺激を受けました。そして、早速ですが、岡山へ出かけ、「ネット懇」にお邪魔してきました。専門職が約30名ほど集まり、“巡回なんでも相談会”の準備状況や勉強会の講師について、また後見人の死後対応の仕組みをどう作っていくのかをテーマに熱い話し合いがされていました。「ネット懇」終了後は、NPO法人岡山高齢者・障害者支援ネットワークの理事会があり、包括から相談があった案件や家裁から新規に挙がってきた案件の担当者を決定する話し合いをされていました。また、終了後は竹内先生お勧めの飲み会にも参加させていただき、岡山県民と滋賀県民の交流を深めてきました。

竹内先生のお話をきっかけに、今後の滋賀県における権利擁護の仕組みについてイメージができ、滋賀県がよりよい方向に進んでいくよう、あさがおも一歩ずつ取り組んでいきたいと思っています。



地域支援員養成専門講座2010終了

12月2日、大津市民活動センターで、大津市社会福祉協議会副参事の山口浩次氏を講師に迎え、地域支援員養成専門講座2010の実習報告会を行いました。その後、あさがお事務所にて閉講式があり、4名の方が修了されました。この専門講座は、基礎講座よりも更に専門的な内容として計画し、全14回の講座と実習によって、権利擁護支援のあり方などを学んで頂きました。

年々、成年後見のニーズは増加しており、地域支援員をどのように活用していくのかは、重要な課題です。今後は法人としての中長期的なビジョンを明確にし、地域社会のニーズに応えていきたいと思っています。



後見活動日記

長年、第三者に金銭管理を任せていた70代後半の男性Oさん。古いアパートで一人暮らしをされていました。Oさんは、就寝時間以外は車椅子を使用しての生活です。立って歩くことはできず、一人で外出する事ありませんでした。あさがおが補助人に就任してからは、毎週木曜日、生活費のお届けをしていました。自宅にお邪魔すると、右手をあげながら、しゃがれた声で「ご苦労さん」といつも笑顔で声をかけてくれました。訪問時は必ずと言っていい程、西村京太郎のサスペンスドラマを観ておられました。テレビの横には、大好きなタバコとサンドウィッチ、そしてお茶の入ったペットボトル。それはまるで、仲の良い兄弟が背比べをしているかのように並んでいました。



2011年からのデジタル放送化に伴い、Oさんのアナログテレビも買い換える必要が出てきたため、Oさんと自宅近くのジャスコへ買い物に行きました。Oさんにとって、外で買い物をするという事は、実に7年ぶりの出来事でした。Oさんは、自らこだわりのある服選びをし、ポケットの付いた赤いポロシャツを気に入り、同じようなシャツを何枚も買われました。それから、テレビを選び、お菓子も買いました。補助人がついた事で、経済的に自由になり、少しずつ自分で使えるお金ができたOさん。その後、お気に入りの赤いポロシャツに袖を通す事は一度もありませんでしたが、とても嬉しそうに買い物をされていた柔和な笑顔、しゃがれた声は、今でも忘れる事ができません。

景況の雪解けいつか春を待つ

純坊

今月の一句

書籍紹介



著者 藤本 直規 奥村 典子
出版 クリエイツかもがわ

****あさがおの会員を募集しています****
私達の活動に賛同・支援していただける個人・法人の会員を募集しています。

個人 入会金 1,000円 年会費 5,000円

法人 入会金 10,000円 年会費 50,000円

お問い合わせは 077-522-0799 まで